

令和元年度 第1回下野市社会教育委員会 議事録

- ・ 審議会等名 令和元年度 下野市社会教育委員会
- ・ 日 時 令和元年7月8日(月)午後1時30分～3時30分まで
- ・ 会 場 下野市役所3階 教育委員会室
- ・ 出席者 五月女委員長、花澤副委員長、海老原委員、坂口委員、青木委員、稲葉委員、橋本委員、大塩委員、菅井委員、大垣委員、桑島委員
【欠席委員】 齋藤委員、今村委員
(事務局) 池澤教育長、手塚生涯学習文化課長、浅香課長補佐、漆原主査、松岡主事
- ・ 公開・非公開の別 (公開 一部公開 非公開)
- ・ 傍聴人 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録(概要) 作成年月日 令和元年7月12日

【協議事項等】

1 開会〈手塚課長〉

2 委嘱状の交付

今年度から委員になった海老原委員、稲葉委員に委嘱状を交付

3 委員長あいさつ〈五月女委員長〉

令和元年度第1回の会議にお集まりいただきありがとうございます。昨年話し合ったことをもとにさらに詳細を詰めていきたい。新しい委員も忌憚ない意見をお願いします。

4 教育長あいさつ(池澤教育長)

地域学校協働活動の具体的な取り組みについてきちんとした方向性を提言していただきたい。

5 委員及び職員自己紹介

6 議題

(1) 令和元年度社会教育委員会議のスケジュールについて

(五月女委員長) 事務局より説明を求める。

(事務局) 本日の第1回会議では昨年に引き続き「地域学校協働活動の具体的な取り組みについて～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～」(仮)の内容について協議していただく。9～10月開催予定の第2回会議で今回いただいた意見も踏まえてまとめる。来年2月開催予定の第3回会議で最終確認をしていただく。出来上がったものは教育委員会に提出する。

(五月女委員長) 何か質問などはあるか。

【異議なし】

(2) 令和元年度社会教育関係団体の補助金交付について

(五月女委員長) 事務局より説明を求める。

(事務局) 下野市子ども会育成会連絡協議会、エンジェル国分寺(防犯パトロール団体)の2団体より申請があった。両団体の活動内容を精査し、補助金交付してよろしいか意見を伺いたい。

(五月女委員長) 説明と配布資料を確認したうえで質問はあるか。

【質問なし】

(五月女委員長) では2団体への交付を認めてよろしいか

【異議なし】

(3) 前年度からの継続協議

「地域学校協働活動の具体的取り組みについて～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～」(仮)

(五月女委員長) 事務局より説明を求める。

(事務局) 平成26年度から平成30年度まで社会教育委員会議でどういった調査研究を進めてきたのかを改めて確認。事務局で作成した「地域学校協働活動の具体的取り組みについて～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～」の提言内容の素案を確認したうえで、文中の表現やその内容について意見をいただきたい。

(五月女委員長) 説明・資料の内容について何か質問はあるか。

(花澤副委員長) 地域学校協働活動推進員の現状を教えてほしい。

(事務局) 各地区の公民館の社会教育指導員3名が兼任している。また、学校教育課にその3名を統括する委員がおり、各学校と連携して活動している。月1回、教育長を交え、活動報告も受けている。

(花澤副委員長) その方々が具体的に取り組んでいる内容も教えてほしい。

(事務局) 推進員は担当地区の各学校運営協議会に参加している。また各学校に1名配置されている地域連携教員に推進員の存在を認知してもらうため学校訪問などを行っている。昨年度から始まった事業なので今後、活動の幅を広げられるようにしていく。

(五月女委員長) 「はじめに」の終盤に当たるP. 2の上から7行目の「実社会に裏打ちされた」という部分だが文章表現的にどうか。

(事務局) この文言については中教審の答申内容の抜粋であり、そのまま引用している。

(教育長) P. 2「この提言の目的」の結びの部分で、「望ましい教育環境を創出するために指針となるべき提言」という記載があるが、この地域学校協働活動に関する提言は、過疎化する地域の活性化を、地域と共にある学校と実現したいという意図があるので、この提言の目的は「望ましい教育環境の創出と地域の活性化についての指針となるべき提言」としてもらえると、この提言の意図が明確になると思うので、その部分について検討願いたい。

(委員長) この部分についてどうか。このように修正してよろしいか。

【異議なし】

- (大塩委員) P. 4の最終行に「学校と地域の連携体制づくりについて、社会教育行政の側からの支援も必要な時機である」とあるが、我々はこの支援を考えていくことになるのか？
- (事務局) 花澤副委員長からも話があったが、昨年度、地域学校連携推進員を設置したが、推進員が動くためのバイブルとなるものがまだ無い。この取り組みは下野市独自の地域性のある取り組みなので、国にそれを求めるわけにもいかない。我々、行政の立場も、推進員を選任し、体制をつくって、それで終わりとするのではなく、行政側からもこういった活動をしたら、地域と学校がより連携ができるのではないかというバイブルがこの会議の中からできればありがたい。
- (花澤副委員長) それなら表記の仕方を少し変えたい。「時機」という言葉だと、そのときだけというような一時的な意味と捉えることもできるので、「社会教育行政の側からの支援も必要である」とすべきと考える。
- (大塩委員) 私は、今が特に支援に力をいれるべきタイミングという意味で「時機」という言葉を使ったと解釈した。
- (教育長) それとここは、まだ体制の整っていない学校もあるので、今ここをターニングポイントと捉え、テコ入れすべきだという意味も含まれている。決して一過性のものという意味ではない。実際、各校で開催されている学校運営協議会には毎回出席し意見を述べ、地域連携教員とも仲を深めている。これは当然今後も継続していくものである。
- (花澤副委員長) 「時機」という言葉を残すなら直前の「必要」を「必須」に直すのはいかか。必要だと少し意味合いが弱くなる。
- (教育長) 各地域の特性に合わせる必要があるし、「必須」とすると強制的になってしまう。それは良くない。そうではなく、必要だからやる。となってもらいたいで、そこは強調したくない。
- (橋本委員) 「時機」という言葉を重く考えすぎであると考え。もう少し軽くとらえても問題ないと思う。
- (五月女委員長) あまり強く言って学校が雁字搦めになってしまうのは良くないと思うので、原案のとおりで進めていこうと思うがよろしいか。
- 【異議なし】**
- (五月女委員長) 次の『下野市の「ふれあい学習」の主な取り組み』の部分について何か付け加える部分はあるか。
- 【特に意見なし】**
- (五月女委員長) では、その次の昨年の本委員会の協議題をまとめた部分はどうか。
- (事務局) 当該ページ下部の点線部は昨年の協議内容をもとに事務局で作成したものになるので、修正や意見などがあれば伺いたい。
- (桑島委員) まずはビジョンを明確にすることが重要。学校として育てたい子供の姿やそれを実現するための方策を示し、学校運営協議会で協議する。それを地域と共有するようになれば良い。大変だが重要だと考える。

- (五月女委員長) 学校教育目標を作る際、校長は4～5月頃に今年度の重点施策を作り、目指す子ども像、スクールデザインを系統化したものをPTAなどに示す。その中に地域との連携について具体的にどうするかというのも入っている。
- (教育長) 昨年から学校運営協議会の承認を得ないと学校教育目標を公示できない。
- (海老原委員) 学校運営協議会に学校教育目標を承認いただいて4月からスタートするのが正しい形だが、学校運営協議会が年度当初に開くことが難しいので、PTA総会や学校だよりも仮にその方針でスタートして、学校運営協議会で承認を得てから改めて正式決定したと知らせている。
- (教育長) 学校運営目標が従来より具体的なものになっている。学校運営協議会にも参加されている大塩委員いかがか。
- (大塩委員) 今年度、子どもたちをどのような方針で育てていくかは、既に前年度に考えている。それを校長の異動があった場合でも学校運営協議会委員がバックアップとなって次の校長にも引き継ぐことができる。これは大切なことだと思う。
- (教育長) 小中一貫教育を有効に進めるには、まず中学校区ごとに9年間で育てたい子供像を全体構想図としてきちんと示す。それを受けて各中学校区の学校長がそれに向けて進めていく。小中一貫教育の良いところはそこにあると思うが、全体構想が抽象的だと上手くいかない。
- (海老原委員) 学校側が具体的な説明をしているつもりでも、学校運営協議会に参加されている公募委員が一般市民目線から見るとよくわからないという意見もある。具体的にはどういうことをやるのか。説明の中に教育用語が入っていると、それはどういう意味なのかと質問を受けることがあった。
- (稲葉委員) 南河内中区は校舎も小中学校一体型なのでわかりやすいが、国分寺中区は隣接型となる。国分寺小の保護者からはその隣接型とは最終的にどうなるのか着地点がよくわからないという話を聞くことがある。
- (教育長) そこで大切なのが育てたい子ども像の明確化である。学校運営協議会制度を導入した意義はそこにあり、小中一貫教育と両輪とならなければならない。一体型や併設型など様々なかたちがあるが、方向性は明確にして教育課程のほうもしっかりしていく必要がある。
- (青木委員) 育てたい子ども像を明確にし、保護者にわかりやすく伝えるのは非常に重要である。学校の先生たちは学校運営協議会委員の意見を受けて動いてくれていることがすごくよくわかるので、私たち市民と学校で協働して出来上がったものを「ただ学校と運営委員がやっているだけのこと」で終わったら寂しい。
- (事務局) 今日の会議だけで意見をまとめきるのは難しいと思うので、後日、それぞれのご意見を提出してもらいたい。それを次回までに事務局でまとめる。
- (五月女委員長) 校長が学校運営協議会委員に対し、どのような方針で育てていくのかビジョンを示すというのは既にやっていることだという話は伺えた。このほかに学校が独自に依頼しているボランティアの方々もいます。そのような方々が何のために活動しているのか共通認識を持つことが大切です。とある。

- (菅井委員) そこに対して質問がある。これは誰と誰が共通認識を持つということなのか。
- (事務局) 地域と学校を指している。
- (菅井委員) 異なるボランティア同士が共通認識を持ってください。ということなのか。学校とボランティアがということなのか。
- (事務局) 本項のテーマが「目的の共有化を図る」ということなので、学校と地域（ボランティア）という意味である。文言がわかりづらいということであれば修正していきたい。
- (五月女委員長) 例えば福祉教育だと、学校では世の中には障がいなどをお持ちの方もいるという教育をする。その方たちに対して健常者がどのような支援ができるかというのを教育活動に位置づける。その後、障がいをお持ちの方が普段どのように生活されているのか、車いすや手話を体験し、どういったことが大変なのかを知り、その部分に対して手伝えることがあると気付かせる。ボランティアはその手伝えることを実践している方という立場で、学校の意図した教育を支えていくことができる。
- (青木委員) 読書活動ということだと、本を読むことによって読解力や語彙を増やすことができることを教えることが直接的なものだが、それだけでなく自分たちが持つていく図書を通して押しつけがましくならないように、世の中には五体満足な人たちだけでなく、いろんな人がいるということ、子どもたちが自然に気づくことができるようなお手伝いができればいいと考えている。
- (花澤副委員長) なぜボランティアが必要かというのは難しい話でなく、子ども達の理解の手助けである。育てたい子ども像に沿って教育をするにあたって、その全てを教員だけの力で理解させるのではなく、ボランティアとして各分野のエキスパートに手伝ってもらい、より具体性を持って教えてもらうことで、子どもたちの理解を助ける。それだけのことだと思う。
- (青木委員) 読みきかせのボランティアをしてくれている人たち、自分たちが本を読むのが好きで楽しんでいる。それによって子供たちが楽しんで、且つ、本に興味を持ってもらえればというだけで、何のためにとか、こういう指導のためにということはない。
- (菅井委員) 何のために活動しているのか共通認識を持つというのが、ボランティアが一生懸命やっているのに、何を考えてやっているのかわからない。学校側ときちんとした意思疎通をしてやってください。と言われていたようだったので、それはどうだろうかという意味で発言した。そこまで求められるとボランティアとしても辛いと思う。
- (五月女委員長) 子どものころからいろんな人たちとのふれあいを通して、子どもたちひとりひとりの人間性を育てていく一助にしたいという意味となるようにしたい。
- 会議終了時間になってしまったので、あとはそれぞれが考えて意見を出していただいて、事務局に提出いただきたい。それを次回の検討の題材としたい。
- (事務局) 本日の協議内容を含め、提言書についてご意見・ご提言があれば、こちらで用意した様式に記入いただき、8月末ごろまでに提出いただきたい。

7 その他

(1) 栃木県社会教育委員協議会評議員の選出について

- (事務局) 県教育委員会から評議員選出依頼が届いている。どなたか1名お願いしたい。
- (花澤副委員長) ずっと私が行っている。他にやる方がいなければ私の方で継続させていただく。

(2) ひと・まちづくり講演会の開催について

- (事務局) 8月3日(土)の10時から南河内公民館で講演会を開催する。市の総合計画策定に携わった中村祐司氏が講師となっている。是非、積極的な参加をお願いしたい。

- (事務局) 次第に明示したものは以上だが、追加で2つお知らせしたいことがある。

(3) ラジオ体操・みんなの体操会について

- (事務局) 8月2日(金)に大松山運動公園でNHKの公開生放送が行われるので多くの方に参加していただきたい。

(4) 栃木県社会教育委員協議会第2回理事会及び第3回総会について

- (事務局) 栃木県社会教育委員協議会理事になっている花澤副委員長から報告があるということなので、説明を願う。

- (花澤副委員長) 県社会教育委員協議会及び総会に参加した。財政安定化のために会費と機関誌の値上げの話があった。値上げに見合うように内容の見直しなどを行い、それについては次年度末までに詳細を提案するとのことだった。

8 閉会

- (事務局) 次回の会議は9～10月を予定している。